

Governor's Monthly Letter

G M

ガバナー月信
会長・幹事殿

Rotary
District 2710

2025-26 ROTARY
INTERNATIONAL
District 2710

Vol. **12**
2026.6

UNITE FOR GOOD

会長・幹事の皆さま、そして会員の皆さま、こんにちは。
今年度のフランチェスコ国際ロータリー会長メッセージは、“UNITE FOR GOOD”
「よいことのために手をとり合おう」です。
英語の苦手な私ですが、FOR GOODには、
「よいことのために…」の他に、もう一つの意味があるのだそうです。
それは「永遠に…」という意味です。
次年度のババロラ会長は、CREATE LASTING IMPACTという
メッセージを我々に投げかけました。
脇 和也ガバナーエレクトは、これを「人々の心に響く、
長期的な良い変化を生み出そう」と分かりやすく示してくれました。
今月で私のガバナーとしての1年が終わろうとしています。
これからも、昨日の自分より少しだけでもましな自分になれるよう、
そして人の役に立てるような“ロータリアン”を目指していきたいと
思います。

*Enjoy Rotary
For Good!*

皆さんロータリーを楽しみましょう。



Contents

ロータリー親睦活動月間によせて	02	第16期 RLI partII報告	11
RYLA報告(ロータリー青少年指導者養成プログラム)	04	IM報告 GIO, 11合同	12
防府北RC創立45周年記念式典・祝賀会	06	IM報告 G5	13
広島南RC創立70周年記念例会	07	IM報告 G9	14
第49回地区RA年次大会	08	新会員紹介/会員の増減・出席率	15
IA韓国3690地区との日韓交流事業派遣報告	10	地区大会 in 宇部	16

《今月の特別月間》
ロータリー
親睦活動月間





ロータリー親睦活動月間によせて

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナー
土肥 慎二郎

6月は「ロータリー親睦活動月間」です。

「よし！それならクラブで旅行や懇親会を開催して、会員同士の親睦を深めるぞ！」といきたいところですが、ロータリーでいうこの月間は少し意味が違います。

ロータリー親睦活動って国際奉仕なんです。当地区の諏訪昭登パストガバナー(2008-09年度)が、その月信において詳しく紹介しておられるのですが、2002年から正式なRIプログラムとなっています。

“国際奉仕”と聞くと、他国における人道的支援活動や多国間での共同事業などを想像されるかと思いますが、RIにはロータリアン同士の国際理解や友情を深めるためのプログラムが用意されています。

ロータリー親睦活動は、1928年にエスペラント語に関心を持つロータリアンが集まったことがきっかけに始まりました。その後、1947年には、ボートに関心のあるロータリアンのグループが船にロータリーの旗を掲げ、自らをロータリアンの国際ヨット親睦グループと名乗りました。

親睦活動の種類は、年を経るごとに増えていきましたが、その目的は今日も変わっていません。それは親睦の下にロータリアンのつながりを築き、趣味や職業に関連した活動を楽しむ機会を提供することです。

今は便利なものがありますね。
右側のQRコードを、スマートフォンで検索してみてください。



皆さんにあったグループが見つかるかもしれません。
また、新しいグループを作ることも出来るんです。

Enjoy Rotary!!

ロータリーの親睦とは…

「ロータリーの親睦と奉仕は車の両輪」という話を聞きます。

また「車の両輪ではなく、家でいう1階(親睦)と2階(奉仕)の関係である」という方もおられます。いずれにしてもロータリーにおいては親睦が大切なことは疑いのないことなのでしょう。

親睦を図りたければ、誰にだって無限の機会があります。気の合った仲間とゴルフや旅行に行くもよし、カラオケやバーでだって親睦を図ることができます。一人一業種だなんて料簡の狭いことを言わなくても、同業者同士でも充分親睦は図れます。

ロータリーが考える親睦は、いわゆる“fellowship”といわれています。

「親睦」と訳すよりもむしろ、[友情]とか[友愛]と訳す方が理解し易いかもしれません。クラブとして存続していく上で欠かすことの出来ない必要条件であり、ロータリアン個人個人の心が結合した状態を表す概念です。

「ロータリーにおける親睦は、奉仕の心の形成につながる」とも言われています。そして、奉仕の心を形成する場はクラブの例会です。例会出席は欠かすことのできない義務であり、別な言い方をすれば、他のロータリアンに対する友情の証でもあります。

以上は、私が尊敬するロータリアンのお一人、田中毅パストガバナーの文献の一部です。
(源流の会「炉辺談話」より)

“親睦”と“親睦活動”、
これは少々異なるものなのかもしれません。

最後になりましたが、私の父(土肥浩右PG 2000-01)が脳梗塞で入院した時、リハビリのつもりで書いた手記を紹介いたします。

土肥整形外科病院

口々タリ〜の人の交流は色々である
メンツヤ野心 競合 金銭慾
などなど。 素で無意味である
大切な心。 それを優しくても
暖い善善意にみちた心。
口々タリ〜の交流はこれぞ成り立
っているのだと感心
心は「キレイゴト」ではない



RYLA報告 (ロータリー青少年指導者養成プログラム)

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 RYLA実行委員長
古澤 彰一
(江田島RC)

今年度のRYLAは、江田島青少年交流の家にて2026年4月4日から5日にかけて1泊2日、江田島ロータリークラブがホストクラブとして開催させて頂きました。

コホストクラブとして呉、呉東、呉南ロータリークラブ様にご協力頂き、広島、岩国よりスタッフ含め約80名の参加者が江田島に集まりました。

江田島ロータリークラブがRYLAを開催をさせて頂くのは、広島江能ロータリークラブとして活動していた時から24年ぶりとなります。

土肥慎二郎ガバナーより、「江田島といえば平和」という話を聞いて、実行委員会で協議した結果、今年度テーマを「平和への一歩～江田島の地で学び、共に感じよう～」とし、RYLAはスタートしました。

1日目は、広島港に参加者全員が集合し、開講式にて幕が開けました。

土肥ガバナーより、このRYLAでは、皆さん一人一人が「平和とは何か?」「そのために自分は何ができるか?」ということを「考えていただきたい、というお言葉」を頂きました。

最初、参加者の皆さんは緊張した様子ではありましたが、開校式よりグループに分かれて頂いたことで、移動の船内でも昼食をとりながら自己紹介をしたり、和やかな雰囲気が流れていました。

船が到着した先は、海上自衛隊第1術科学校。旧海軍の歴史と平和の尊さを学べる場所として、構内見学を実施しました。

土砂降りの雨の中ではありますが、大講堂や幹部候補生学校庁舎など歴史ある貴重な建造物を見学しました。

教育参考館では、旧海軍関係の資料など数多くの展示・保存がされ、参加者の皆さんも1点1点に目を向けられ、特に展示されていた神風特攻隊員たちの遺書や遺品には時間をかけて見学され、命の尊さを感じる体験となりました。



構内見学後は、バスにて国立青少年交流の家へと向かいました。

到着後、海上自衛隊第1術科学校の小牟田 秀覚 学校長による基調講演。

演題を「海上自衛隊第1術科学校の歴史と文化について」と題して、組織編成や国を守るための活動について詳しくお話を頂きました。

構内見学や小牟田学校長のご講演を通して、改めて海上自衛隊第1術科学校の歴史と文化、海軍の伝統を深く心に刻むことが出来ました。

雨の中での構内見学をして頂いたこともあり、参加者の皆さん少しお疲れの様子ではありましたが、ご講演後は江田島市在住のシンガーソングライターである樹-MIKI-さんによるスペシャルコンサートを開催させて頂きました。

坂本九さんの歌で有名な「上を向いて歩こう」や、江田島市唯一の高校である大柿高校の生徒の皆さんと作成された「おいでよ江田島」を披露して下さい、温かく力強い樹さんの歌声は、参加者の皆様に癒しと素敵な笑顔を届けてくれたと思います。

樹さんのスペシャルコンサートの後は、皆さんお待ちかねの夕食です。

バイキング形式の夕食では、グループごとに団欒をして頂きながらお腹一杯食べて頂き、体力を回復して頂きました。

この頃には皆さんすっかり打ち解けて、会話も弾んでいたように思います。



その後の基調講演第2部では、演題を「ロータリーは平和を構築するために何をしてきたか」と題して井内康輝パストガバナーによるご講話を頂きました。

井内パストガバナーは、ガバナーを務められた際に「平和の種をまこう！！～ロータリアンにできること～」を信条として活動に取り組まれておられたこともあり、参加者お一人お一人に平和に対する思いを語りかけて下さいました。

スペシャルコンサート第2部では広島東南ロータリークラブ会員の温泉川 梅代様をお招きし、平和を願い反戦歌を披露して下さいました。

シャンソン歌手としても活動しておられる温泉川様の歌声は、会場におられる皆様の心を温かく包み込んでくれたように感じました。

1日目の終わりは、レストランにて懇親会を開催しました。参加者の皆さんと1日を振り返り、参加者同士の絆が強まる素敵な時間となりました。

2日目はグループに分かれて、「平和とは何か、平和への第一歩として自分に何が出来るか」をテーマにグループディスカッションをして頂きました。

参加者全員で意見を出し合い、グループの中で主体的に役を受けてくれたことでディスカッションの90分間はあっという間に過ぎてしまいました。

グループ発表では、外国人参加者の方が母国語で発表

をしたり、寸劇で分かりやすく表現したり工夫を凝らしたグループもありました。

また、発表に対して他グループやロータリアンからも質問として積極的に手が上がり、平和に対して参加者全員で深掘が出来たように感じました。

平和に対しての捉え方・考え方はそれぞれではありますが今、自分たちに出来ることを本気で考え、次世代に繋げていくという思いが詰まった本当に素晴らしい時間になりました。

「平和への一歩～江田島の地で学び、共に感じよう～」をテーマに始まったRYLAは、参加者の皆様が成功へと導いて下さったものと思います。

私自身、今回のRYLAを通して日常の「平和」に目を向けなければならないこと、そして主体性をもって行動すること、一歩を踏み出す勇気を参加者の皆さんから学ばせて頂きました。

参加者の皆さんには改めて地域、家族、今回出会った仲間との絆をより強いものにして頂き、周りに「平和」を伝え、広げて行って頂きたいと思います。

最後になりますが、ご協力頂きました自衛隊第1術科学校の皆様、国立青少年交流の家の皆様、第2710地区すべてのロータリアンの皆様、大きな一歩を踏み出された青少年の皆様に心から感謝申し上げます。





防府北RC 創立45周年記念式典・祝賀会

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 防府北RC 会長
右田 克行
(防府北RC)

はじめに

2026年3月14日、春の息吹が感じられる佳き日に、防府グランドホテルにおいて「防府北ロータリークラブ創立45周年記念式典」ならびに「祝賀会」が挙行されました。当日は、防府市長 池田豊様をはじめ、国際ロータリー第2710地区の役員諸兄、近隣各クラブの皆様、そして遠方より駆けつけてくださった原町中央ロータリークラブの皆様など、多くのご来賓をお迎えし、我々メンバー一同、感謝と喜びを分かち合う一日となりました。

厳かなる記念式典

午後4時、1階「ホワイトインシグニア」にて、藤村こずえ会員の司会のもと記念式典の幕が開きました。国歌独唱では、ソプラノ歌手の内山望美様の澄み渡る歌声が、式典に気品ある彩りを添えてくださいました。

式典冒頭、国際ロータリー第2710地区ガバナーの土肥慎二郎様より、温かいご祝辞を賜りました。当日は公務のため残念ながらご欠席となりましたが、寄せていただいた力強いお言葉は、我々のこれまでの歩みを正しく評価し、背中を押してくださるものでした。

また、防府市長 池田豊様からもご祝辞を賜り、地域のリーダーとして、また当クラブの良き理解者として、今後の活動に対する期待の言葉をいただきました。

誠実な志が生んだ「福島の絆」

本式典における最も象徴的な場面の一つは、福島県南相馬市から、原町中央ロータリークラブの中田則行会長をはじめとする計13名もの会員の皆様をお迎えしてきたことでした。

東日本大震災直後の支援活動から始まったこのご縁は、単なる一時的な交流に留まらず、15年の長きにわたり誠実に育まれてきました。震災時、目に見えない不安に怯える子供たちのために放射線量計を届けたあの日から、私たちは「自分たちができる範囲内のことを、誠実に行う」という志を紡いできました。

今回、遠路はるばる防府の地までお越しいただいた13名の皆様の笑顔を拝見し、我々が続けてきた活動が、確かな「心の絆」として結実していることを再確認いたしました。

華やかな祝賀会とビデオレター

午後5時半からは、会場を2階「ラドリクス」に移し、祝賀会が盛大に開催されました。オープニングでは、記念事業の支援対象である華城小学校吹奏楽部の皆さんによる演奏が披露され、その瑞々しい音色が会場を一気に活気づけました。

祝賀会の最中には、土肥慎二郎ガバナーからのビデオレターが上映されました。画面越しではありましたが、ガバナーの情熱あふれるメッセージは、会場を和やかな、そして熱い感動で包み込みました。

その後、各テーブルでは近隣クラブの皆様や原町中央RCの皆様との歓談が続き、旧交を温める笑い声や、これからのロータリーの在り方について語り合う熱い言葉が飛び交いました。少人数のクラブではありますが、この日、会場に溢れたエネルギーは、決して大規模クラブに引けを取らない、力強いものでした。

「次の50年へ」——誓いを新たに

古松幸雄実行委員長による謝辞をもって、全てのプログラムは滞りなく終了いたしました。しかし、我々の心の中に灯った灯は、この日、さらに大きく、明るく燃え上がりました。

メンバーひとりひとりが改めて心に誓ったのは、**「次の50年へ」**という固い決意です。

45年という歴史を振り返れば、それは決して平坦な道ではありませんでした。しかし、先輩方が大切にされてきた「誠実に志を紡ぐ」という姿勢、そして「できることを、心を込めて行う」という精神があったからこそ、今日の防府北ロータリークラブがあります。

5年後の50周年、そしてその先の未来に向けて、私たちは何を成すべきか。時代が移り変わり、社会のニーズが変化しても、私たちが受け継いできたこの「誠実さ」というバトンを止めることはありません。

少ない人数であっても、志を同じくする仲間が集えば、地域社会、そして遠く離れた福島までも繋ぐ大きな力になれる。そのことを再確認したこの一日は、当クラブにとって、新たな黄金期への第一歩となりました。

最後になりましたが、本式典の開催にあたり多大なるご支援を賜りました皆様、そしてこれまで当クラブを支えてくださった全ての皆様に、深甚なる感謝を申し上げ、創立45周年記念の報告とさせていただきます。





広島南RC 創立70周年記念例会

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 広島南RC 創立70周年実行委員会 副実行委員長
丸岡 優介
(広島南RC)

2026年4月3日(金)に広島南ロータリークラブ創立70周年記念式典及び晩餐会を挙行了しました。国際ロータリー第2710地区土肥慎二郎ガバナーはじめ多くの地区関係のご来賓にご臨席賜り、スポンサークラブであります広島ロータリークラブの三島 豊会長はじめ13ロータリークラブの会長・幹事様にも、ご多用の中ご来臨頂きました。ありがとうございました。

また、1971年6月25日に姉妹縁組を締結以来、55年に亘り交流を続けているハワイのヒロロータリークラブからも、ニュートン・チュー会長はじめメンバーとその家族21名の皆様が、お祝いに駆けつけて頂きました。

創立70周年実行委員会の荻田知英実行委員長の開会の言葉、広島南ロータリークラブ第70代会長の高田 諭会長の挨拶に続いて、土肥慎二郎ガバナーからは、広島南ロータリークラブ創立以来の様々な活動を紹介頂きながら、温かいご祝辞を賜りました。

続いて、ヒロロータリークラブのニュートン・チュー会長からの祝辞があり、『ヒロと広島南の両クラブは、かけがえのない平和の絆で結ばれている。そして、平和とは単に紛争が無い状態ではなく、積極的に持続する友情が存在することで成り立つという共通の信念で結ばれた交流こそが、平和へのたゆまぬ献身の証である。』と、感動的なスピーチがありました。

広島ロータリークラブの三島 豊会長にも祝辞を賜りました。高田 諭会長から創立以来スポンサークラブとして多くのご指導ご支援を頂いたことに衷心より感謝の意を表し、感謝状を贈呈させて頂きました。

続いて、本年度実施した創立70周年記念事業を紹介しました。

① 平和の像『若葉』銘板の修復事業

10周年記念事業として、彫刻家 圓鏝勝三氏が製作し、湯川秀樹博士の碑文『まがつびよ ふたたびここにくるなかれ 平和をいのる 人のみぞこは』を刻んだ、平和の像『若葉』の銘板を修復しました。

② モンゴルの植林事業

砂漠化の進むモンゴル国の国家緊急事態管理庁と連携して、植林事業を本年度からスタートしました。グローバル補助金を申請して継続事業とします。



③ フィジー共和国のナワイ中学校への トイレ・シャワー設備の寄贈

姉妹クラブであるヒロロータリークラブとの共同事業として、ナワイ中学校の大幅な生徒増に対応するために寄贈しました。

結びになりますが、広島南ロータリークラブは1995年(昭和31年)4月6日(金)に広島ロータリークラブをスポンサークラブとして、新広島ホテルにおいてチャーターメンバー 27名による創立総会が開催されました。初代会長は、広島銀行専務取締役の岩井 章さんでした。広島南ロータリークラブ会報誌の第一号の表紙に、その岩井会長の会報発刊の辞が掲載されており、一部を以下に紹介します。『わが広島には、余程以前から広島ロータリークラブがあって、立派な活動をしておられるが、わがクラブは、いわばその分身として誕生したわけである。戦後世界的平和都市として、発展せんとする広島において、ロータリークラブの発展することは、当然のことであると思う。われわれは人類永遠の繁栄幸福を希い、人類共愛の道に進む者として、ロータリーに生きて行かんとするのである。』戦争の傷跡残る当時の広島で、未来に向かって歩まんとするチャーターメンバーの力強い気概と創立の理念が伝わって来ます。70周年を迎えた現在のメンバーも、創立の志に深く思いをはせながら、強い意志をもって未来に向けて歩みたいと思います。





第49回 地区RA年次大会

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 地区RAC代表

藤岡 小雪

(広島RAC)

去る4月11日、「第49回地区ローターアクト年次大会」を開催いたしました。今年度の年次大会は、ホテルメルパルク広島において式典を、そして広島アンデルセンにおいて懇親会を執り行いました。当日は、土肥慎二郎ガバナーをはじめ、地区ローターアクト委員会の皆様、そして各提唱ロータリークラブの皆様に多数ご臨席を賜りました。この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。

今年度の地区ターゲットには『CHANGE!!!!』を掲げました。これはコロナ禍を乗り越え、活動が本格的に再開する中で、単に「以前の活動に戻す」のではなく、5つのクラブ(広島、広島中央、広島大学、福山、徳山)がそれぞれ新しい変化を起こしてほしいという願いを込めたものです。この地区ターゲットを大会テーマという形で具現化するにあたり、私たちが掲げたのが「エンジョイメイクアップ計画」です。

「エンジョイ」という言葉は、今年度のガバナー信条である「Enjoy Rotary」へのリスペクトから引用させていただきました。ガバナーが提唱される「ロータリーの活動は義務や負担ではなく、会員自らが楽しむ(Enjoy)ものであるべきである」という精神は、私たちアクターにとっても活動の原点です。そして私たちは、ロータリーの素晴らしい仕組みである「メーキャップ(出席補完)」という仕組みを、アクターらしい視点で捉え直しました。ロータリーの世界で「メイクアップ」と言えば、欠席した例会の補填という事務的なイメージが強いかもしれませんが、私たちは受動的に「出席を埋める」のではなく、能動的に「楽しみを計画し、交流すること」と、意味を再定義しました。

式典にはロータリアン、OB、アクターのほか、広島市長・松井一實様もご多忙の中駆けつけてくださいました。市長からは、平和の拠点である広島で活動する私たちへ、深く、そして力強いエールをいただきました。行政のトップから直接期待の言葉をいただくことは、アクターたちにとって、自分たちの活動が単なる身内の集まりではなく、社会と地続きであることを再認識

する貴重な機会となったと感じています。

基調講演の講師としてお招きしたのは、広島FMのパーソナリティーとしてお馴染みの大窪シゲキ様です。長年、ラジオ番組「大窪シゲキの9ジラジ」を通じて中高生のリアルな悩みや夢に伴走してこられた大窪様の講演は、まさに圧巻の一言。投影資料を使わずマイク一本で、会場の隅々まで目を配りながら語られる言葉の一つひとつに、私たちは瞬時に引き込まれていきました。また大窪様は大会終了後も、アクターたちが抱える悩みや、講演で聞ききれなかった相談に対し、ご自身のInstagramを通じて、ひとつひとつ丁寧に回答してくださいました。壇上の講師と聴講者という一時的な関係を超え、一人の大人として、人生の先輩として私たちに寄り添ってくださったその優しさに深く感動いたしました。

式典の後半には、各クラブの活動報告、そして地区活動報告が行われました。

報告のトップバッターを務めた福山RACは、『繋がり』をクラブターゲットに掲げ、福山ロータリー Eクラブ2710と合同で行った芦田川の清掃活動や、ガバナーや他クラブのアクターを招待した例会「セミな〜る」を行いました。地域社会への奉仕と、クラブの垣根を超えた交流を両立させた活動は、まさにローターアクトの原点を再認識させるものでした。

続いて登壇した広島大学RACは、海外大学との日本語交流会「しゃべり場」のオンライン開催や、SNSを活用した積極的な新歓活動について報告しました。学生らしい自由な発想で21名まで仲間を増やし、国際交流を楽しみながら進める姿は、会場の多くのメンバーに刺激を与えてくれました。

年次大会のホストを務めた広島RACは、30人という大所帯を『Plus Ultra ~さらに向こうへ~』のクラブターゲットのもと、一つのチームとしてまとめ上げました。千羽鶴例会やピースダイアログといった平和を考える活動や、募金や子ども食堂フェアへの参加といった活動は、まさに地区のリーダー的存在にふさわしいものでした。



四番手の徳山RACは、『「大」航海!』というクラブターゲットを掲げ、異業種交流例会や他地区を含む3クラブ合同例会など、外部との繋がりを積極的に広げた活動を振り返りました。クラブ存続の危機という荒波を乗り越えたからこそ得られた強い絆を武器に、さらなる挑戦へと舵を切っています。

広島中央RACは、水引体験や宮島例会などの日本文化継承や他地区交流を通じ、少人数ながらも活動の質にこだわった活動を報告しました。やる気あふれるメンバーが心から楽しんで活動する様子は、他クラブにとっても非常に参考になる好事例でした。

最後に私から地区活動報告を行い、地区ターゲット『CHANGE!!!!!!』の周知や、パラフェンシングの大会や下関海響マラソンで行った奉仕活動などについて報告いたしました。

式典後の懇親会は、広島アンデルセンにおいて執り行われました。洗練された空間で提供される美味しい料理を囲みながら、所属地区や年齢を問わず活発に交流する時間は、まさに親睦の醍醐味でした。

親睦を深めるプログラムとして行われた余興では、広島の誇る名産品を題材にした「利きソース・利き酒・利きもみじ饅頭」という、広島への愛着と鋭い味覚が試されるクイズを実施しました。各テーブルでは、味や香りの繊細な違いを巡って白熱した議論が巻き起こり、正解が発表されるたびに大変大きな歓声が会場に響き渡りました。ロータリアンの皆様も一緒になって真剣に吟味してくださり、会場全体が一体となって「楽しむ(Enjoy)」という精神を体現した、非常に盛り上がる時間となりました。

また次年度の地区役員紹介では、地区RA代表エレクトの原郁哉さんをはじめとする役員全員が壇上に揃いました。例年はマイクを回して一人ひとりが挨拶する形式が通例でしたが、今回はここでも「CHANGE!!!!!!」を体現。原代表エレクトがメインスピーカーとしてユーモアたっぷりに各役員を紹介し、さらには意表を突く「早着替え」のパフォーマンスを披露するなど、趣向を凝らした演出で会場を大いに沸かせてくれました。

続いて行われた他地区PRでは、各地から駆けつけてくれたアクターたちが登壇しました。それぞれの地区で開催される年次大会や、次年度は鹿児島県で行われる「七地区交流会」の案内など、各地の特色を交えたPRが行われました。改めて広域的な友情の広がり、共に活動する仲間の存在を実感する機会となりました。

最後になりますが、本大会を成功に導いてくれた岡崎廉実行委員長をはじめ、約半年前から準備に奔走し、当日は細やかな気配りで大会を支えてくれた広島RACの会員に心から感謝します。そして、私たちの未熟な運営を常に温かく見守り、多大なるご支援を賜りました広島RCをはじめとする提唱クラブの皆様、地区RA委員会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

私の代表としての任期はあとわずかですが、この大会を通じて培った経験が、次年度の第50回年次大会という大きな節目に向けた確かな土台になると信じています。ロータリアンの皆様には、これからも私たちアクターの挑戦を温かく、時に厳しく見守っていただければ幸いです。





2025-26年度インターアクト 韓国3690地区との日韓交流事業派遣報告

国際ロータリー 第2710地区 2026-27年度 インターアクト委員長
郷田 宏

2026年3月28日～30日、韓国3690地区との日韓交流事業としてインターアクト韓国研修旅行に行っていました。本年度は山口県のインターアクター 10名、顧問教師1名、ロータリアン2名、通訳1名の計14名で訪韓致しました。生徒内訳はサビエル3名、野田学園2名、柳井商工1名、宇部高専1名、誠英3名です。

1日は福岡空港から仁川国際空港に向かい、空港では金日韓親善委員長、成インターアクト委員長をはじめインターアクト委員会の皆さんに盛大に出迎えて頂き、記念撮影後バスで1時間かけ目的地の抱川地区ホテル・Galleryへ到着致しました。その後すぐに歓迎式典を行い生徒たちはホームステイ研修として、それぞれのホストファミリーと共に各家庭に向かいました。すでに1月17日にホームステイ受け入れ事業を済ませており、2か月ぶりの再会に皆晴れ晴れしいにこやかな顔が印象的でした。



2日はホームステイからホテルに集合し、ハグをしながら別れを惜しみつつ韓国のロータリアン、インターアクターに見送られながらバスでソウル市内観光に出発しま

した。北村韓屋村、景福宮、国立博物館、明洞散策を経て夕食後、相鉄スプラジールソウル明洞ホテルに宿泊し2日目終了。



3日は市内観光後、仁川空港から帰国の途につきました。今回のインターアクターはすべてにおいて時間厳守で、大したトラブルもなく優秀な生徒達でありました。事業目的である日韓両国の若者が互いの文化や考え方を理解、友情を深めることが十分に達成できたと思います。こういう交流の積み重ねが未来の平和と協力の礎となり、両国関係を支える貴重な架け橋になると実感しました。又、多くの若者と触れ合うことができ私も元気をいただいで若返ったような気がします。

最後に、今回の韓国研修旅行の実行にあたり尽力いただきました土肥ガバナーをはじめ、地区事務局の皆さん、インターアクト委員会の皆さん、インターアクト顧問教師の皆さん、提唱RCの皆さん、通訳として参加いただいた李東宇さん(米山学友)へ心から感謝申し上げます。



第16期 RLI パートII報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 地区RLI 委員長
小西 直人

2026年4月5日、広島YMCA国際文化センターにおいて、国際ロータリー第2710地区RLI(ロータリー・リーダーシップ研究会)第16期パートIIが開催されました。本会場は、2026年1月25日に実施されたパートIと同一会場であり、継続的な学びの場として適した環境の中での実施となりました。

当日は、地区内55クラブより73名のロータリアンが参加されました。参加者は12名~13名ずつのグループに分かれ、セッションごとに教室を移動する形式で研修が進められます。各グループには、2710地区内から選抜されたファシリテーターが配置され、「RLI方式」と呼ばれる双方向型の進行が採用されました。これは、講義形式ではなく、参加者への問いかけを軸に議論を展開し、「自クラブでの実践事例」や「個々の考え」を共有し合うことで理解を深めるものです。

今回のセッションは以下の6テーマで構成されました。
①「成功に導くための計画」、②「会員を勧誘する」、③「チーム作りとクラブコミュニケーション」、④「ロータリー米山記念奨学事業」、⑤「ロータリー財団II—シェアシステムと地区補助金」、⑥「強いクラブを創る」。いずれのテーマも、クラブ運営およびロータリー活動の実践に直結する内容であり、参加者は各教室を巡りながら、多角的に学びを深めました。

特に印象的であったのは、参加者の積極的な発言と相互交流です。大多数がパートIに続く2回目の参加であったこともあり、前回よりも緊張感が和らぎ、よりリラックスした雰囲気の中で活発な意見交換が行われました。また19名のファシリテーターの内、今期(第16期)から参加した8名もパートIを経験して自信をつけていること

もあり、ファシリテーターによる適切な問いかけで各グループでは具体的かつ実践的な議論が展開され、単なる知識の習得にとどまらず、「自クラブに持ち帰るべき気づき」を得る機会となったと思います。

また、各セッション終了後に実施された全体評価では、「期待以上」「期待通り」「期待未満」の三段階評価において、すべてのセッションで「期待以上」の評価が50%から65%を占める結果となりました。これは、プログラム内容の充実度に加え、参加型学習の効果の高さを示すものといえます。特に「成功に導くための計画」「会員を勧誘する」「チーム作りとクラブコミュニケーション」といったクラブ運営の根幹に関わるテーマでは、実務に直結する具体的な示唆が多く得られたとの声が多く聞かれました。他方「米山記念奨学事業」及び「ロータリー財団パートII」では、なじみのないテーマであるが、その構造等がよく理解できた、地区補助金に興味を持って、使わなければいけないと思ったなどの声が多く聞かれました。

終了後、地下1階の国際ホールで全体会議が開かれ、杉川聡地区ラーニングファシリテーターの講評に続き、井内康輝バスターガバナーから今回でRLIの全プログラムを終了した4名に終了証とバッチの授与が行われました。

RLIは、ロータリアンひとりひとりのリーダーシップ向上を目的としたプログラムであり、その本質は「学び合い」にあります。今回も2名以上の複数参加クラブが15クラブあり、3名が参加されたクラブもあります。会場の制限はあるものの最大84名の受け入れは可能です。できるだけ多くの方に参加していただき、研修を通じて得られた知見や気づきをクラブに持ち帰り、各クラブの活性化と地区全体の発展につなげていただきたいと思います。





IM報告 [G10・G11]

「ロータリーの未来予想図」～テクノロジーで未来を切り拓く～

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度

G10ガバナー補佐 **濱田 雅文**

G11ガバナー補佐 **橋本 慎吾**

本年度の、国際ロータリー2710地区「G10・G11合同インターシティミーティング(IM)」は、ご来賓に枝広直幹福山市長、2710地区土肥慎二郎ガバナーをはじめ、G10・G11のロータリーメンバー409名の全員登録、322名の本会議参加をいただき、盛大に開催されることができました。

今年度のRI会長フランチェスコ・アレツォ会長メッセージ「よいことのために手を取りあおう」、そして、土肥慎二郎ガバナー信条「Enjoy Rotary」の下、本年度の集大成の場として、IMテーマを「ロータリーの未来予想図 ～テクノロジーで未来を切り拓く～」とさせていただきました。そのおもいは、クラブやグループの垣根を越えて、この地区のロータリアンが未来に向けて、手を取りあい「夢や希望」に満ち溢れた未来予想図を描いていただきたいと考え、現代社会の課題である、テクノロジーを活用して未来を切り拓くことの大切さを、念頭に開催させていただきました。

本会議第1部では、ソフトバンク株式会社の開発責任者である、専務執行役員の内 英幸様に、「AIで描く地域社会の未来予想図」のタイトルで多くの事例をもとに、基調講演をいただきました。「AIの活用をしない限り、現代社会から取り残されますよ。」との危機感を熱いトークでみなさんに伝えていただきました。第2部では、広島市に本社を置かれ、国内外で大活躍されてロータリアンでもある、ヒロマツホールディングス株式会社の代表取締役会長兼CEOの松田哲也様に、パネリストとの絶妙な距離感によるパネルディスカッションのコーディネートをいただき、第1部で基調講演をいただいた、内専務様、グーグル・クラウド・ジャパン合同会社上席執行役員の上野由美様、福山市長枝広直幹様にパネリストとしてご登壇いただき、「活かそうテクノロジーを！広げようロータリーを！」をタイトルとして開催しました。ソフトバンクとGoogleの役割について、素人でもわかりやすくご説明をいただきました。また、枝広市長は、より福山市民に対して、もっと役に立つAIを含めたテクノロジーの活用により、市民生活の満足度向上について熱心にディスカッションをいただきました。



また、G10・G11ロータリー会員に対して事前アンケートへお答えをいただいた内容をもとに、会員参画型のパネルディスカッションが展開できたので、より理解と参画意欲が高まりました。その結果として、本会議終了後、会員のみなさんより、「経営やロータリー活動などで感じられている課題解決に役に立てる内容であった。」と、多くの声をいただきました。

最後に、懇親会では全国大会出場の広島県立神辺旭高等学校による「書道パフォーマンス」で幕を開け、その後のアトラクションでは福山丸之内RC社交ダンスのメンバーをはじめ土肥ガバナーにもご登壇いただき楽しい会となりました。G10 G11の皆様には心から御礼を申し上げます。

この度のインターシティミーティングを契機に、G10・G11のメンバーに「未来の予想図」を描いていただき、更には2710地区がよりテクノロジーを駆使して、各クラブへのデジタル化を促進して、地区とクラブが効率的かつ円滑なコミュニケーションが推進できれば幸甚です。



IM報告 [G5] 「教育を通じた地方創生」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 G5ガバナー補佐
勝井 優
(岩国中央RC)

今年のインターシティミーティング(IM)は、3月22日に岩国国際観光ホテルにて開催いたしました。

来賓、ガバナー、パストガバナーならびにグループ5の会員126名が参加し、「教育を通じた地方創生」をテーマに、基調講演が行われました。

講師は、徳山工業高等専門学校校長の阿部恵様による「留学経験から拓いた次世代教育」と、ヘルシンキ大学社会科学部障害学教授の勝井久代様による「留学を通して学んだこと」の2題で、約1時間半にわたってご講演いただきました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターを岩国中央ロータリークラブのIM実行委員長 松川卓司が務め、コメンテーターとして岩国市教育長の守山敏晴様、パネリストとして阿部恵様、勝井久代様、そして柳井ロータリークラブの和田実会員にご参加いただきました。

また、市内の中高生と保護者の皆様にもご参加いただき、生徒から留学の準備やきっかけに関する積極的な質問が寄せられました。先生方からは「今ある機会を逃さず、積極的に挑戦することの大切さ」について貴重なご助言をいただきました。各クラブ会員からも英語教育に関して経験を通して関心の高さが示され、非常に充実した議論となりました。

さらに、柳井西ロータリークラブの秋田京子会員が、参加された生徒、保護者の皆様に対し、ロータリーの留学制度に関して丁寧な説明をされたと報告を受けております。

今回のIMのテーマは、2015-16年度ガバナー補佐を務められた我がクラブの西本守利会員がIM時に提唱された「教育を通しての地方創生」と重なるものがあります。

当時、岩国では米軍岩国基地の再編に伴い、愛宕山地区に米軍将校住宅が建設され、基地内でも新しいペリースクールをはじめ、多くの施設がリニューアルされていました。岩国はもともと基地に対して協力的な地域であり、こうした環境の変化は大きな注目を集めていました。

一方で、山口県ではすでに人口減少・高齢化・少子化といった地域衰退の課題が顕在化しており、地域活性化のために何ができるかを議論する中で、「岩国ならではの取り組み」が模索されました。

国際ロータリーでは以前から交換留学プログラムを積極的に推進しており、第2710地区でも1973年から2025年までの51年間で、受け入れ227名、派遣241名もの交換留学生を送り出しています。また、文部科学省の報告によれば、2023年度には89,179人も日本人学生が海外へ留学しています。しかし、留学には相応の費用が必要であり、短期でも1か月40万～80万円、1年では300万～500万円程度を要します。

そこで西本会員から、「愛宕山でホームステイを行い、基地内のペリースクールに通うことができれば、海外留学と同等の教育効果が得られるのではないか」という提案がありました。もちろん、米軍関係者との調整など簡単ではない課題もありますが、挑戦する価値のある取り組みだと考えております。

今回のIMが、地域の教育発展に向けた新たな一歩となり、将来の取り組みのきっかけとなったのではないかと自負しております。

最後に、基調講演を賜りました阿部様、勝井様、パネルディスカッションにご参加いただいた土肥ガバナー、守山様、そしてグループ5の会員の皆様にご心より御礼申し上げます。皆様のお力添えにより、大変意義深く、実り多いインターシティミーティングとなりました。





IM報告 [G9] 「歴史に学ぼう、Enjoy Rotary」

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 G9ガバナー補佐
森崎 正治
(広島空港RC)

国際ロータリー第2710地区グループ9インターシティミーティングを、グループ内5クラブ90名の参加を受け、3月28日(土)広島エアポートホテルにて開催いたしました。

ご来賓には、土肥慎二郎RI2710地区ガバナー、中島秀晴グループ9次年度ガバナー補佐をお迎えし、また記念講演の講師として静岡大学名誉教授 小和田哲男氏にお越し頂きました。

IMのテーマは、「歴史に学ぼう、Enjoy Rotary」とさせて頂きました。

小和田先生の歴史に関する講演を聞いて頂き、会員の今後の人生あるいはロータリー活動に役立てて頂きたいという思いと、土肥ガバナーが掲げておられる「Enjoy Rotary」～思いやりと奉仕の心で～という思いを一つに表現したテーマとなっております。

開会式は、点鐘の後重森佳代子実行委員長の開会の言葉により始まりました。その後、広島空港RCの川本吉則会長が歓迎の挨拶を述べ、土肥慎二郎ガバナーよりグループ9IMに対する温かいお言葉を頂戴いたしました。

記念講演では講師の小和田哲男先生に「小早川隆景が戦国の世をどのように立ち回ったか」という演題で、講演して頂きました。

小和田先生は戦国時代史の研究において第一人者として有名な方であり、NHKの大河ドラマでは、幾つかの作品において時代考証という難しい仕事もされておられます。

NHKのプラタモリにも何度か出演されて、多くの人が顔なじみの方であります。

そんな小和田先生に講演をお頼みすることになるきっかけは、広島空港クラブに歴史好きの会員がいて、小和田先生と強いつながりを持っていたということです。

小早川隆景は毛利元就の三男であり、養子縁組で竹原・沼田両小早川家の当主となり、三原城を築城し、毛利家を支えることに尽くしています。私達の地域にはとても縁が

深い戦国武将であることから、演題に取り上げて頂きました。

小早川隆景はいち早く豊臣秀吉の力量を認め、秀吉に協力していくことを決めるという「先見の明」を持っていました。戦に強い知将でもあり、秀吉の四国攻め、九州攻め、朝鮮出兵などで数々の戦功をあげ、伊予や筑前・筑後の大名にもなっています。

また、秀吉から「日本の西は小早川隆景に任せれば全て安泰である」と言われ、五大老の一人に選ばれるなど秀吉から大いに信頼されていました。そして、最後まで毛利本家のことを思い、秀吉の養子であった秀秋を小早川家の養子にもらうことによって、毛利本家の純血を守りました。以上のような内容を小和田先生はわかり易く話して下さいました。

交流懇親会では、土肥ガバナーに乾杯の音頭を取ってもらい、講師の小和田先生にも参加して頂いたので、5クラブの懇親を大いに深めることが出来ました。アトラクションとしては、「歴史クイズ」と称して、クラブ対抗で全国各地の城の名前を当てるクイズをしました。

城の映像を前方に映し出して城の名前を当てなければならぬのですが、大変難しいのもありまして皆さん苦勞しておりました。広島空港クラブもとんでもない回答を出して、場を盛り上げていました。

懇親会途中で、日本城郭協会理事長でもあります小和田先生が、城についておまけのミニ講演をして下さり、今日のクイズ問題は良く考えられていたと褒めて下さいました。「歴史クイズ」を楽しいものにしようという司会や進行役の方達の努力もあって、懇親会が大変盛り上がりましたので、各クラブの皆さんには充分楽しんで頂いたと思います。

今回のIMでは、グループ9のロータリアンの活発な交流や懇親をすることが出来ました。ご参加・ご協力頂いた全ての皆様、大変有難うございました。心よりお礼申し上げます。



国際ロータリー第2710地区 — 2025-26年度 新会員紹介 —



増田 雅哉
宇部RC
2026年4月23日
生命保険



谷口 博幸
防府RC
2026年4月13日
管工事業



山内 茂樹
山口南RC
2026年4月2日
金融



村光 譲治
岩国RC
2026年5月7日
金融(商業銀行)



浅田 恭史
広島北RC
2026年3月12日
貨物自動車運輸業



津田 剛
広島北RC
2026年3月12日
自動車販売



綾部 耕二
広島陵北RC
2026年4月15日
不動産管理業



河村 信義
大竹RC
2026年4月21日
信用金庫



飯田 悠太
西条RC
2026年4月9日
生命保険



青砥 岳
福山RC
2026年4月20日
火災保険



中村 仁祈
福山RC
2026年4月27日
証券業



久下 昌周
福山RC
2026年4月27日
総合建設業



大塚 真
福山南RC
2026年4月2日
制御盤製造業



桜井 邦彦
三次RC
2026年4月2日
新聞発行



岡本 大輝
庄原RC
2026年4月7日
医療機器販売

謹んで哀悼の意を表します

故 岡本 太殿
呉RC
2026年4月26日 ご逝去
(享年54歳)
[職業分類]
塗装
[ロータリー歴]
2023-24年度 副幹事
2024-25年度 青少年奉仕委員長

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度会員増減・出席率(2026年4月度)

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月		本年度	
				末日	内女性	入会	退会
1	長門	85.34	25	25	3	2	2
	下関	73.39	43	45	2	4	2
	下関中央	69.49	38	43	7	5	0
	下関東	69.60	65	66	6	4	3
	下関北	74.04	58	57	4	1	2
	下関西	79.17	33	30	0	0	3
	計	75.17	262	266	22	16	12
2	萩	77.79	42	40	3	2	4
	萩東	86.18	25	23	1	0	2
	美祿	73.30	18	22	1	4	0
	小野田	82.12	31	36	4	8	3
	宇部	95.34	38	37	3	4	5
	宇部東	74.63	9	9	1	0	0
	宇部西	86.12	49	49	6	1	1
計	82.21	212	216	19	19	15	
3	防府	91.31	57	58	3	3	2
	防府北	83.01	22	20	2	1	3
	防府南	86.56	44	45	9	2	1
	山口	78.15	44	49	5	6	1
	山口県央	87.13	24	22	2	2	4
	山口南	93.56	42	40	7	1	3
	計	86.62	233	234	28	15	14
4	光	77.07	52	52	4	2	2
	周南西	82.66	57	56	6	3	4
	徳山	99.22	40	41	2	6	5
	徳山セントラル	78.58	20	21	3	2	1
	徳山東	100.00	42	41	1	2	3
計	87.51	211	211	16	15	15	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月		本年度	
				末日	内女性	入会	退会
5	岩国	75.25	66	64	1	2	4
	岩国中央	85.12	38	38	6	1	1
	岩国西	84.80	64	65	6	2	1
	柳井	88.88	25	24	1	1	2
	柳井西	99.08	26	28	6	2	0
	計	86.63	219	219	20	8	8
6	広島	99.45	123	117	2	14	20
	広島安芸	99.80	33	35	4	4	2
	広島安佐	82.54	13	18	3	7	2
	広島東	96.00	108	115	14	18	11
	広島北	93.89	102	108	0	7	1
	広島陵北	96.59	44	49	4	7	2
	大竹	86.98	24	24	0	3	3
計	93.61	447	466	27	60	41	
7	広島中央	100.00	62	67	5	8	3
	広島廿日市	86.21	24	21	2	1	4
	広島城南	100.00	40	39	3	1	2
	広島南	100.00	86	84	0	4	6
	広島東南	100.00	84	78	13	6	12
	広島西南	99.52	77	78	5	5	4
	広島西	99.54	92	90	7	2	4
計	97.90	465	457	35	27	35	
8	江田島	94.35	17	16	0	1	2
	東広島	82.54	23	23	2	2	2
	東広島21	86.93	21	22	3	2	1
	呉	84.98	71	67	5	0	4
	呉東	75.98	34	35	3	2	1
	呉南	91.44	43	44	1	1	0
	西条	99.57	44	46	1	5	3
広島新世代	87.91	0	21	3	22	1	
計	87.96	253	274	18	35	14	

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月		本年度	
				末日	内女性	入会	退会
9	広島空港	81.79	28	27	4	1	2
	因島	95.45	14	14	0	4	4
	三原	88.92	49	49	1	2	2
	尾道	73.57	77	75	2	1	3
	尾道東	86.55	47	48	7	3	2
	計	85.26	215	213	14	11	13
10	府中	85.73	14	15	3	2	1
	福山	94.24	85	83	3	8	10
	福山東	75.12	32	34	2	5	3
	福山丸之内	87.11	22	22	1	0	0
	鞆の浦	70.00	15	15	0	0	0
	福山REC2710*	100.00	7	7	1	0	0
計	85.37	175	176	10	15	14	
11	福山赤坂	83.90	52	52	4	1	1
	福山北	92.12	32	29	2	0	3
	福山南	69.34	56	57	4	4	3
	福山西	85.52	40	38	4	2	4
	松永	94.32	54	55	8	2	1
計	85.04	234	231	22	9	12	
12	吉舎	92.96	9	9	0	0	0
	三次	73.51	40	40	1	3	3
	三次中央	93.32	33	32	5	0	1
	庄原	91.29	26	26	2	1	1
	東城	92.47	14	13	0	0	1
計	89.76	122	120	8	4	6	
第2710地区計	86.45	3048	3083	239	234	199	

*正式名称「福山ロータリーエクラブ2710」



地区大会 in 宇部



10月23日金
24日土
25日日



2026-27年度
国際ロータリー第2710地区

地区大会 大会事務局

〒755-0042 宇部市松島町9-6 (株)オータニ2F
TEL 0836-39-0511

地区大会 前日

10月23日 金

■ 宇部72カントリークラブ・阿知須コース
「記念ゴルフ大会」

地区大会 1日目

10月24日 土

■ 国際ホテル宇部

- 大会委員会
- 会長・幹事会
- 基調講演: 三浦 房紀 氏
- RI会長代理歓迎晩餐会

地区大会 2日目

10月25日 日

■ 大会 / 宇部市渡辺翁記念会館

- 本会議
- 記念講演

元バドミントン日本代表
小椋 久美子 氏



【プロフィール】
三重県出身。8歳の時、姉の影響を受けバドミントンを始める。2001年の全国高校選抜でシングルス準優勝を果たす。三洋電機入社後の2002年には全日本総合バドミントン選手権シングルスで優勝。その後、ダブルスプレーヤーに転向し、北京オリンピックで5位入賞、全日本総合バドミントン選手権では5連覇を達成。2010年1月に現役を引退。現在は子供たちへの指導を中心にバドミントンを通じてスポーツの楽しさを伝える活動を行っている。

■ 大懇親会 / 宇部ゲートタワー (旧宇部興産ビル)



国際ロータリー第2710地区
2026-27年度 ガバナー

わき かつや
脇 和也

ホストクラブ 宇部ロータリークラブ

コ・ホストクラブ 宇部西ロータリークラブ
宇部東ロータリークラブ

